令和４年度　第２回子ども部会
議事録

日　時：令和４年９月16日（金）　11：00　～　12：00
場　所：奄美市市民交流センター3階　大多目的室
参加者：松沼（シエル名瀬教室）、星村、大司（スターズ）、赤塚（聖隷かがやき）、直（ハートリハ龍郷）、福田（にこぴあ）、座安（のぞみ園）、西（はごろもの郷）、山田（ヒマワリ就学塾）、向井、里（チャレンジドサポート奄美）、盛谷（あしたのえがお）、小川（奄美市教委）、隈元（大島養護）鈴木、山下、佐々木（名瀬保健所）、安田、藤崎、岩田（奄美市健康増進課）、師玉（奄美市福祉政策課）
福﨑、中元（ぴあリンク奄美）
オンライン：昇（ここ園）、熊谷（瀬戸内町保健福祉課）
※敬称略　　参加者　25名（内リモート２名）

1. 参加者自己紹介
2. 協議事項【課題と感じている事/話し合いたい事】

〇奄美地区における発達検査について

※向井氏より、WISCについて説明

・心理士によるWISC-Ⅳの検査を実施することで、数値だけではなく、特性や支援の手立てについて
丁寧に説明していただけるため、就学後の支援に生かすことができる。
・丁寧に実施するため　、２日で３人くらいしか行えない。
・全IQでは出にくいが、丁寧に行う事で、具体的な支援に関するアドバイスをいただくことができるため、先々の困り感が少なくなる。（出来るだけ、就学前に検査を行うことが必要。）
・今、困り感が少ない児童でも、進学と共に困り感が出てくる場合や、思春期にいろんな課題がみえてくることもある。
・思春期に検査の提案をしても、受入れができないことが多い。⇒小学校低学年のうちに検査や医療につないでおくことで受け入れも良い。

・年齢があがると、福祉というハードルを越えるのが本人、保護者にとっても難しくなる。

【意見交換】

・奄美市でも、児童の就学に関する見極めや、今後の在り方について知っておくことが必要と考えている。行政内（福祉、健康増進、教育委員会　他）でも連携して対応することが必要。
・未就学児への母子相談では、早期療育につなぐことを目標に行っており、検査を受けていなくてもすぐに療育に繋がるように支援を行っているが、すでに療育に繋がっていることで、就学前に検査を受ける機会が限られてきていたり、検査の対象にならないという課題が上がってきている。
・教育委員会などと連携をとりながら、体制つくりをしていきたい。
・奄美市教育委員会としては、小中学校については、WISC-Ⅲでしばらく対応できる体制を作っている。現在は、次年度就学する児童に検査を受けていただく際に、「誰が（どこが)」「なんの検査（WISC、田中ビネー　その他)」をするかということが課題になっている。
・瀬戸内町は、就学後の児童が、発達検査に繋がることを学校教員が知らないことが多かったがチャレンジドが関わった児童のケースが、校長会などで話題になって情報が拡がってきている。現在、中学校の不登校児童も増えているため、今後さらに情報提供し、支援につなげたいと考えている。
・これまでは、児相に検査をお願いしていたが、今年度は、就学に向けた検査が目的の場所ではないという対応に代わってきており、困っている。
・児相へは、保護者から直接相談してもらっているが、電話の時点で検査できないと断られることもある。面談までは、していただいた場合でも、情緒対象の子どもさんに対しては、検査にまで至っていなケースが多い。
・情緒支援学級対象の子どもさんへの検査をどうするか考えていかなければならない。
・県全体として数値だけじゃない情報で就学に進めたらと考えている。
・児相に依頼しても、事業所からではなく、保護者から直接であれば相談は受けると言われている。(直接児相に相談に行っていただいている)
・今年度は、巡回相談（限られた人数)、CSA に依頼している。最近はグレーゾーンの子どもさんが多いため、学習環境を整えられるように検査を実施し就学相談につなげている。
・グレーゾーンの子どもさんの就学児の判断については、数値がすべてではないが、基準として、情緒学級を希望する児童も、まずはその症状の原因が、知的発達の遅れなのかどうかを判断しなければならないため、必ず知的発達に関する検査が必要。その結果で、優先順位として、知的発達の面での対応が必要と出た場合は、知的学級対象となる。
・情緒面で明らかにケアが必要な場合も、判断基準があり「対人的な関りが困難」というところが大きなポイントになっている。
・保健所としては、乳幼児発育発達クリニックを行っているが、こちらも早期に療育につなぐことが目的。
・検査する窓口がないという事で悩んでいる子どもさんがいるという事は感じており、県としても就学前の児童に対する検査の受け皿について検討が必要と感じている。

・養護学校では、巡回相談で各小中学校を回っているが、通常学級に支援の必要な子への対応の相談が多い。今後は、先生方が教室で対応していけるようなアドバイスを行っていきたい。
・鹿児島からくる子どもさんは検査を受けている方が多い。問題は数値ではない。「どういう支援が必要か」「どのような支援につなげればよいのか」など、就学後に困り感が出てくるだろうなという状況が検査により予想できる。就学前にわかっていれば、必要な支援が見えてくるため、適切な支援を行う事ができ、困り感も少なくしていける。
・特別支援学級ありきではない。丁寧に検査をして、支援のアイデアをいただけることで、通常学級でも対応できる子どもさんも増えてくる。
・適切な就学指導のために発達検査を活用できる体制つくりができたらよい。島ならではの横のつながりを、地域の皆さんで一緒に考えていきたい。
・課題が出てきてから解決するのは難しい。課題が出てくる前の予防的な対応について予算化するのは難しいが、地域で長く支援を行ってきた事業所の意見を元に、今後の方向性を考えていただけたらよい。
・奄美らしい体制や、人材不足を補うためにも予算化も含めたアイデアを地域のみんなで考えていきましょう。

〇教育、医療関係との連携について（情報の共有）

・医療に関わっている子どもさんが増えているが、情報がいただけなかったり、医療に繋がっていることを、後で知ったことにより、連携までに時間がかかることがある。
・薬の状況など、医療と直接連携して確認出来たら。
・落ち着きがない子どもさんや力が強くなってきている子どもさんに対して、診断や治療を早期に行っておければとも考える。
・薬を服用している児童はいないが、訪看を通して児童の状態を知るという事が多い。
・服薬している児童は数名いるが、保護者から情報をいただくことが多い。詳細な情報はいただけないことが多い。（保護者を通して、お医者さんからの説明の状況を確認することもある。）
・事業所では薬を扱わないことが多いが、希望により与薬依頼書などを作成対応している。
・服薬している方はいないが、医療との連携は必要と感じている。
・直接連携は難しいが、相談支援や保護者などを介して連携するようにしている。
・保護者から服薬情報を得ている。分かりづらい時は相談支援専門員に間に入ってもらったり、受診の同行を依頼したりしている。
・医療カンファに参加した際には、相談支援に間に入っていただいた。
・必要な児童については受診の同行などの対応は良いと思う。医者も連携をとりたいと思っているが、病院から出ていけないことが多い。
・県病院（小川 Dr）と連携をとっているので、CSA も間に入ることができる。
・発達外来、もぐもぐ外来、医療として困っている子どもさんがいる場合は、具体的な聞きたい内容がわかればつなぐことができる。
・相談支援専門員に間に入っていただきながら取り組んでいく。
・病院は、病院の中の相談員と連携をとるのも必要。間に入ってくれる方を活用することが

大切。

・奄美病院などは、連携室に精神保健福祉士などもいるため、つなぎやすいのでは。

〇待機児童へのフォローについて

・現在、奄美市は新規受け入れができない状況。親子教室などを活用し、途切れないように対応している。

・瀬戸内町は、待機児童はいない（定員 10 名に 6 名利用）

・北大島では、笠利町の子どもさんが増えてきている。龍郷町も待機していただいている。

・親子教室、定期的な電話連絡などで対応している。

・市町村としては、親子教室を利用しながら、継続できるように取り組んでいる。

〇コロナ感染拡大に伴う在宅支援について

⇒時間超過の為、事業所へアンケート実施

4.その他

〇9 月、10 月の行事について

・第 2 回そだちサポート研修＆交流会（9/9）

・第 2 回子ども部会（9/16）

・中部地区子ども支援 net（10/14）

・第 3 回そだちサポート勉強会（10/21）